

上空から見た姫塚古墳

# 姫塚<sup>ひめづか</sup>・大森<sup>おもり</sup>古墳<sup>こふん</sup>

県指定史跡

古墳時代

(1800年前～1400年前)

滋賀県最大の前方後方墳

平地に作られた古墳だぞ！



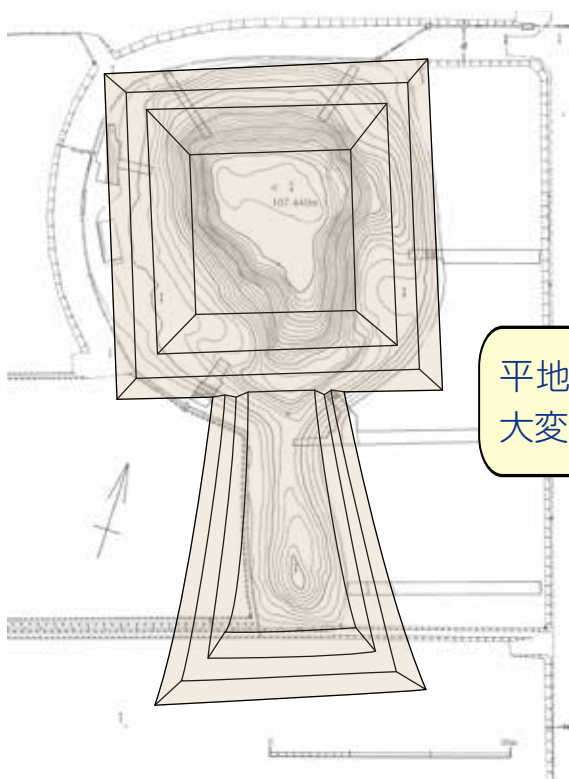
姫塚古墳は高月町にある古墳です。現在残っている大きさは70 mほどですが、周囲が崩れていることから、つくられた当初はさらに巨大であったと考えられていました。

古墳の周りを発掘して形や大きさを確認したところ、全長約80 mの前方後方墳であることがわかりました。これは、滋賀県最大の前方後方墳です。

長浜市の遺跡 4

長浜市高月町東柳野  
昭和57年3月31日指定

# 姫塚古墳



姫塚古墳の推定復元図

姫塚古墳の発掘調査をおこなった結果、それまで考えられていた前方後円墳ではなく、前方後方墳であることがわかりました。葺き石などが並べられていたこともわかっており、古墳時代のはじめごろにつくられたと考えられています。埴輪は出土していません。

平地に古墳を作るのは大変だったのだ！



前方後方墳は主に東日本に多くつくられ、西日本では特に数が少ないという特徴があります。このような中で、姫塚古墳の様に巨大な前方後方墳を平地につくることは大変に特殊なことであるといえます。

## ◆平地につくられた古墳



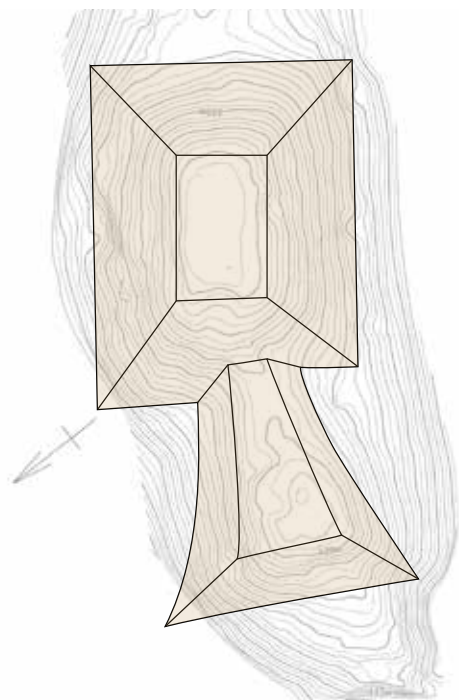
空から見た姫塚古墳

平地に古墳をつくることは、山の上に古墳をつくることに比べ、より大きな労力がかかったと考えられます。

山の上に古墳をつくるには、山を削って古墳の形に整えればよいですが、平地に古墳を作るためには土を運んできて高く盛り上げなければならぬからです。

このため平地につくられた古墳に葬られた人は特に強い権力を持っていたと考えられます。平地に古墳をつくることにより、多くの人の目に触れやすくなり、権力を示すことがさらに容易になったことでしょう。

# 大森古墳



大森古墳の推定復元図

大森古墳は、姫塚古墳の北東にある山の尾根の上に作られています。全長約 63 m の前方後方墳で、前方部と後方が曲がってつながっているのが特徴です。元々の山の形の影響を受けたことが理由として考えられます。横から見られることや、山の下から見られることを意識して、全体の形はあまり重視されなかったのでしょうか？

発掘調査が行われており、出土した土器などから、古墳時代のはじめごろにつくられたことがわかっています。

付近の古保利古墳群なども含めると、高月町周辺には小松古墳、大森古墳、姫塚古墳といった大きな前方後方墳が続けてつくられており、西日本では特に珍しい地域であるといえます。

## ◆ 大森古墳の立地



空から見た大森古墳の位置

大森古墳も横山古墳群などと同じように平地に張り出した山の尾根の上に作られています。このような地点は、見晴らしがよく周辺の土地を支配する上で重要だったのでしょう。

やじるし 矢印の下に古墳があるぞ！



# こふんじだい 古墳時代とは？

コラム

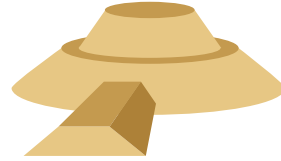
古墳時代とは、今から約 1800 年前から 1300 年前にかけて全国的にたくさんの古墳がつくられた時代のことを言います。

弥生時代に伝わった鉄器がさらに広まり、稲作が発展する中で、身分・階級の差が大きくなっていった時代でした。弥生時代にあった水や土地をめぐる小規模な争いはなくなり、広い地域で豪族を中心にまとまっていきました。

古墳は前方後円墳のように、全国的に同じ形のものがつくられています。なかでも奈良や大阪などの古墳が最も大きく、副葬品も豪華です。近畿の有力者たちが他の地域の豪族をまとめていたと考えられます。

このように、古墳時代とは古墳を一つの象徴として全国の各地域が緩やかにまとまり始めた時代であるといえるでしょう。

## 巨大な古墳



## 新しい技術

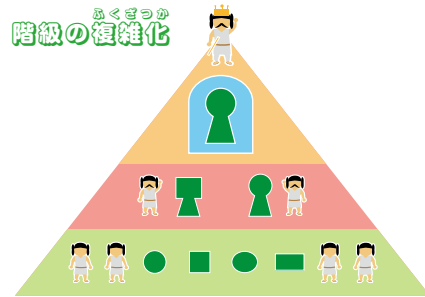


須恵器

新しい農具

馬

## 階級の複雑化



## 古墳時代の特徴



### ● 交通アクセス

公共機関：JR 北陸本線「高月駅」下車、高月観音号「市営住宅」下車徒歩5分  
車：国道8号線「役場前」交差点を西へ約 1.2 km

### ● お問い合わせ

ながはましぶんかざいほご  
長浜市文化財保護センター

〒526-0802 滋賀県長浜市東上坂町 981 TEL 0749-64-0395